（別紙4）

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2490200421		
法人名	(有)しあわせ		
事業所名	グループホームしあわせ		
所在地	三重県四日市市水沢町横堀5137-1		
自己評価作成日	令和4年10月13日	評価結果市町提出日	令和4年12月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=2490200421-00&ServiceCd=320

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人　三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和　4　年　11　月　2　日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

大自然を肌で感じられる環境の中、利用者様・職員共々和気あいあいと日々を過ごしている。個別に身体状況を把握し丁寧な介護を心掛けている。四季折々の行事を、どなたでも楽しく参加していただけるよう工夫し開催している。感謝の気持ちを忘れず、利用者様のご支援をさせていただいている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所の開設から5年目を迎え、利用者の平均年齢も90歳を超え、身体的・精神的に少しづつ低下がみられる中、家族と利用者、職員に信頼の厚い管理者の下、『感謝の気持ち』の理念と（感謝の心・思いやりの心・謙虚な心・誠実な心・奉仕の心・愛の心・忠誠心・使命感な心）の8つの心構えで、利用者の思いや意向に添える支援を全職員で実践している。調査当日も車椅子で散歩に出掛ける利用者の弾けるような素敵な笑顔が見られた。コロナ禍が継続するなか、利用者が家族や地域から孤立しないよう感染防止を徹底し、家族の面会も利用者の居室で対面での面会が行われている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
		○	3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
		○	3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
		○	4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
		○	3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロアに掲げた「感謝の気持ち」を大切にし、実践につなげている。	『感謝の気持ち』の理念とともに！しあわせに関わる全ての方に感謝して接します！』をフロアの一番よく見える場所に掲げ、職員は常に意識しながら、笑顔とチームワークで利用者に感謝の気持ちと心に寄り添う支援を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍、感染予防の対策として外部との接触を控えさせていただいている状況である。	コロナ感染防止の観点から本年も地域との交流が殆ど出来なかったが、尺八の演奏会や近所の農家が自由に持ち帰っていいよとされているコスモス畑から、散歩の際に花やカボチャを頂いている。調査日にもカボチャを頂いて帰って来た。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流ができない状況であるため、お電話や書面でのご報告はさせていただいている。ご理解、ご支援方法を活すことができていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年に引き続き三密を回避できないことをご理解頂き、書面にてご報告しご意見等をいただいている。サービス向上に活かせるよう努力している。	コロナ禍であり、参加者と対面しての会議は開催出来なかった。書面での会議は隔月に行い、行事・ヒヤリハット・身体拘束委員会等、事業所の状況を写真を添えて関係者に報告している。行政からは書面報告に対する意見・感想があり、運営に反映している。	運営推進会議は、参加者の意見や情報交換する大切な機会であることから、文書報告（文書会議）の際に参加者から意見や情報交換できるように工夫されることが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ禍、感染予防の対策として外部との接触を控えさせていただいている状況である。	コロナ禍であり、市との相談事や情報交換、報告は電話やメール、ファックスで行っている。介護認定の更新手続き（代行）は、家族の依頼で地区センターに持ち込んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修をおこない拘束しないケアに取り組んでいる。	毎月身体拘束委員会を開催し、ヒヤリハットの検証と身体拘束のない介護について話し合っている。身体拘束委員会で話し合われた内容は毎月開催の職員会議で周知し、身体拘束のない暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修をおこなっている。職員間でも話し合い注意を払い防止に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修をおこない理解に努めているが活用するには至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所、改正時には説明しご理解をいただいている。不明なことがあれば、その都度ご説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見ご希望があれば職員間で話し合い可能な限り対応させて頂く。取り組んだことは書面にて報告している。	コロナ感染防止を徹底し、対面で家族の面会を継続していることから、面会時に意見や要望は聞き入れる機会としている。出された意見や要望は、利用者が安心して過ごせるよう支援に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議や朝夕の申し送りで意見や提案を聞き話し合い、利用者様の状況にあわせた介護をしている。	管理者は夜勤も含め日常的に介護の場にいることから、何時でも意見や要望が言える環境にある。各行事は年間を通して職員の企画（アイディア）で実践している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見を聞く機会を設け、働きやすい環境を作るように努めている。資格習得に向けての相談を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修を行っている。移乗の仕方、オムツのあて方など何度も実践することで介護力を身につけていくよう指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍により、外部との接触を避けている為、交流する機会がない状況である。独自でサービス向上させていく取り組みをおこなっている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の思いを聞き取り、対応の仕方を職員間で話し合い、ご本人が安心して生活できるよう関係を作っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	細かな情報を聞き取り、安心して介護をさせていただけるようご相談しながら関係作りをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご自宅での生活状況を事細かに聞き取り、必要となる支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活する者として、利用者様、職員と助け合い日常生活を送っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で面会の規制をさせていただいている。些細なことであってもご様子をお伝えし相談しながら介護に生かしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会を規制している。他事業所に訪問し交流している。	知人や友人も高齢となり事業所への訪問は望めない。また、コロナ禍であり、家族以外の面会と馴染みの場所に外出することを自粛しているので、人や場との関係継続は今後の課題としている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様が孤立しないよう職員が中に入り関わりをもったり、利用者様同士の関りを横で見守っていたりと支えあう関係が築けるよう支援に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じご相談や支援に努めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者の尊厳を保持し、ご本人が判断できないことなど職員間で話し合いよりよい生活ができるよう検討している。	利用者自ら思いや意向を言えるのが概ね3名であることから、利用者と一対一の介助となる入浴等の機会に会話の中から、自ら言えない利用者はその日の体調や表情、仕草から思いや意向を把握し、朝のミ―ティングや職員会議で情報交換し、全職員が共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様から聞き取れる生活歴やご家族様、他支援者様にお聞きし把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別記録を用い、朝夕の申し送り、日常の話し合いで職員間で共有し現状を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	今必要としている支援は何かを職員と話し合い、ご本人ご家族と相談し理解いただき介護計画を作成している。	毎月の職員会議（カンファレンス）で利用者毎の状態を話し合っている。個別に記録した内容を集約し、3カ月毎にモニタリングのうえ、見直しが必要であれば家族の意見を反映して計画の見直しをしている。利用者の体調に急に変化があればその都度計画を見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の身体状況を把握し朝夕の申し送りで職員間で共有し実践し介護計画の見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者の尊厳を保持し、ご本人が判断できないことなど職員間で話し合いよりよい生活ができるよう検討している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し、関わりを制限している中、個別に必要とされる訪問薬局、訪問歯科をお願いし身体的に安心した暮らしができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回の訪問看護により主治医との連携をはかり体調管理をしている。月１回の主治医による訪問診療を受けている。	全ての利用者は事業所の協力医をかかりつけ医とし、月１回の訪問診療があり、緊急時や24時間対応も可能である。日常の健康管理は週１回訪問看護で行われ、適切な医療支援が受けられる体制となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護で日々の変化を報告し、主治医との連携をしている。急変時は、同事業看護師に相談し的確な支援をさせていただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ソーシャルワーカーとのお話を密に行い経過を把握、退院時のカンファレンスに参加し今後必要な支援を職員間で話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にご説明をさせていただいている。主治医、訪問看護、ご家族と相談しご本人の意向を尊重し支援取り組んでいる。	入居時に『事業所の看取り指針』を家族に説明し、理解してもらっている。利用者が看取りの状態になれば、事業所としては協力医の指導と連携の下、家族と十分話し合い、家族の希望があれば看取りの支援をする方針であり、現に看取り支援が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに沿って対応ができるようにシミュレーションをしている。同事業の看護師、主治医、訪問看護と相談、指示が受けられる体制をとっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災、地震を想定した避難訓練をしている。職員も近隣に在住しており緊急時にも対応できるように共同体制を取っている。	事業所は、山崩れ・河川等の氾濫、津波等の心配がない恵まれた立地にある。年2回（4月・10月）の防災訓練は、職員が夜勤一人となる夜間想定で消防署への通報、利用者の避難訓練を実施、地域には事業所を一時避難所として提供している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人を尊重し丁寧な声掛け、対応をさせていただいている。	利用者の気持ち、精神的な不安がないように、笑顔での会話・言葉使いに心掛けている。羞恥心の面では、トイレの出入口にカーテンを取り付け、排泄時や失禁時、入浴時の介助に気配りしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話をもちご本人の希望を聞き取る。お話できない方は、職員間で話あい適した対応をとっている。表情、行動を観察し介護にあたっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々にできることを把握し、希望に沿ってできる限り対応、変化のある毎日を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身で選ぶことが難しい方が多く、職員が選びご本人に了解をいただいている。着やすい衣類、必要と思う者をご家族に提案し持参、施設で購入させていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の彩り、季節の果物取れたての野菜など、食事やおやつに取り入れてお食事を楽しんでいただいている。	月曜日～金曜日は委託業者の栄養士の献立で、栄養バランスの取れた食材で職員が調理した食事である。土・日・祝日は業者から調理されたものを職員が温めた食事の提供となっている。行事食やおやつは利用者も参加し、どら焼き・焼き芋パーティー、カステラつくり等楽しい食事となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に食事量、形態、水分摂取を把握している。水分補給が難しく、好みの飲み物をお聞きし提供している。ゼリーを作り水分の補給をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後のケアを心がけている。個人により訪問歯科による居宅療養管理指導をうけ定期的に口腔ケア、定期健診を受け相談にものっていただいている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の排泄を確認し、尿意、便意を損なわないよう利用者様の訴え、行動をみてトイレ誘導をおこなう。	個々の排泄記録から排泄パターンを把握したうえ、その日の表情やしぐさから、食事前・寝る前には定期的に声掛けし、オムツ以外の方は見守りと一部介助で出来得る限りトイレで排泄している。夜間は各居室設置のセンサーマットでリアルタイムに排泄介助している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	オリゴ糖、牛乳、野菜ジュース等を取り入れ、自然な排泄を促すよう試みるも、スムーズに排便できていない。漢方薬の服用の時間調整、個々に管理している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴を実施。浴槽に入ることができない方が多く、足浴・シャワー浴となっている。汚染、入浴希望の方は随時対応させていただいている。	概ね週平均2～3回、午前中の入浴で職員と一対一の介助で四方山話しをしながらの楽しい入浴タイムとなっている。浴槽に入れない方6名は足浴しながらのシャワー浴で、体冷えないようバスタオルの活用、浴室に暖房設備が設置されている。季節感では柚子湯で香りを楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご希望に応じて休息していただく。居室の環境を整え安眠が保てるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別で居宅療養管理指導を受け薬剤師による服薬管理を行う。職員はお薬の理解に努め服薬の介助をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別でできることを見出し、職員と一緒に取り組んでいる。利用者様全員が参加できる工夫をしレクリエーションを楽しんでいただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍であり、外出は控えさせていただいている。事業所内、近隣の散歩に出かけている。	天気が良ければ玄関先での日光浴、広い敷地内の散歩、調査日の朝も車椅子で笑顔で出掛けていた。近所の農家のコスモス畑への散策にも出掛けている。春には敷地内にある桜の花見をし、もうすぐ近場の紅葉狩りやコンビニに出掛ける計画をしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金を使う機会が得られていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に沿い対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	個別にご自身の居室と判断できるよう居室入口にお写真、お名前を掲示している。季節を感じられる装飾を施し清潔感を保つ環境を作っている。	共用空間全てに掃除が行き届き清潔感がある。居間兼食堂は広くて、天井は随所に木材が使われ温かみが感じられ、天窓と大きな窓からの自然な採光と間接照明で居心地よい空間となっている。居室は居間兼食堂から一望でき、常に見守りが出来る。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	建物の中心部にフロアーがあり、自由に行き来ができる。ご利用者同士の対話を楽しんでいただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、ご家族と相談し安全な場所作りを心がけている。持参されたお写真やお花等、飾っている。	各居室とも清潔で整理整頓されている。持ち込みは何でも自由であり、お好みで使い慣れたテレビ等の家電やタンス、壁に写真や小物を飾り、中には仏壇が持ち込んでそれぞれお気に入りの部屋づくりとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個別にご利用者の状態を把握し、見守りしやすい共同スペースで安全を確認し自由に活動できる工夫をしている。		